

第3章 私たちにできることはなんだろう

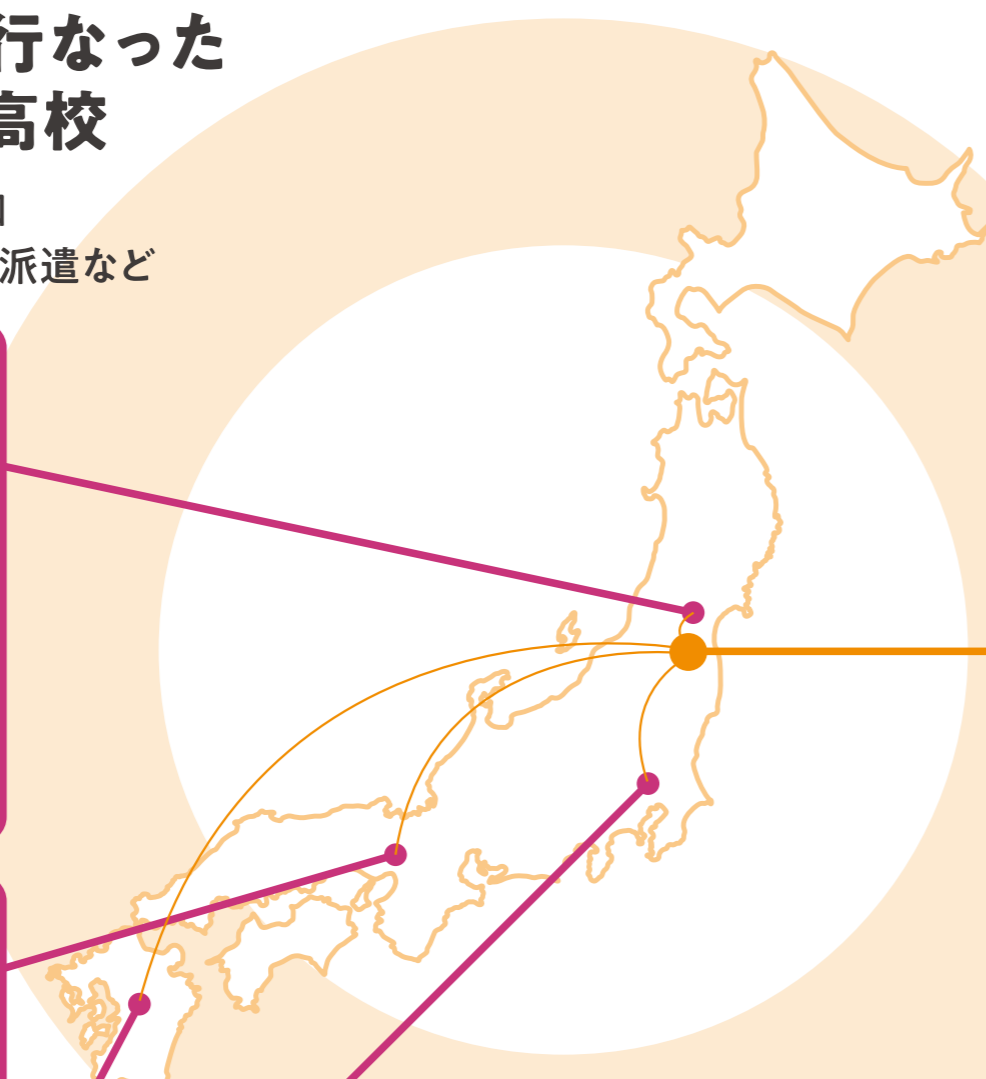
全国各地から参加してくれたたくさんの大学生・高校生と一緒に活動しながら「私たちにできることはなんだろう」と考え続けています。

東日本大震災以降、尚絅学院大学の学生は地元宮城県名取市を中心に被災地で支援活動を続けています。全国各地から多数の大学生・高校生とも一緒に支援活動や学習会等を行なって共に学び、交流を重ねてきました。これまでの繋がりから、尚絅の学生も神戸や熊本を訪問して視察や意見交換を行なうなど、お互いの地域の支援や復興の形を知ることで自分たちの活動を振り返り、「私たちにできることは何か」を考え続けています。

交流・合同活動を行なった全国の主な大学・高校

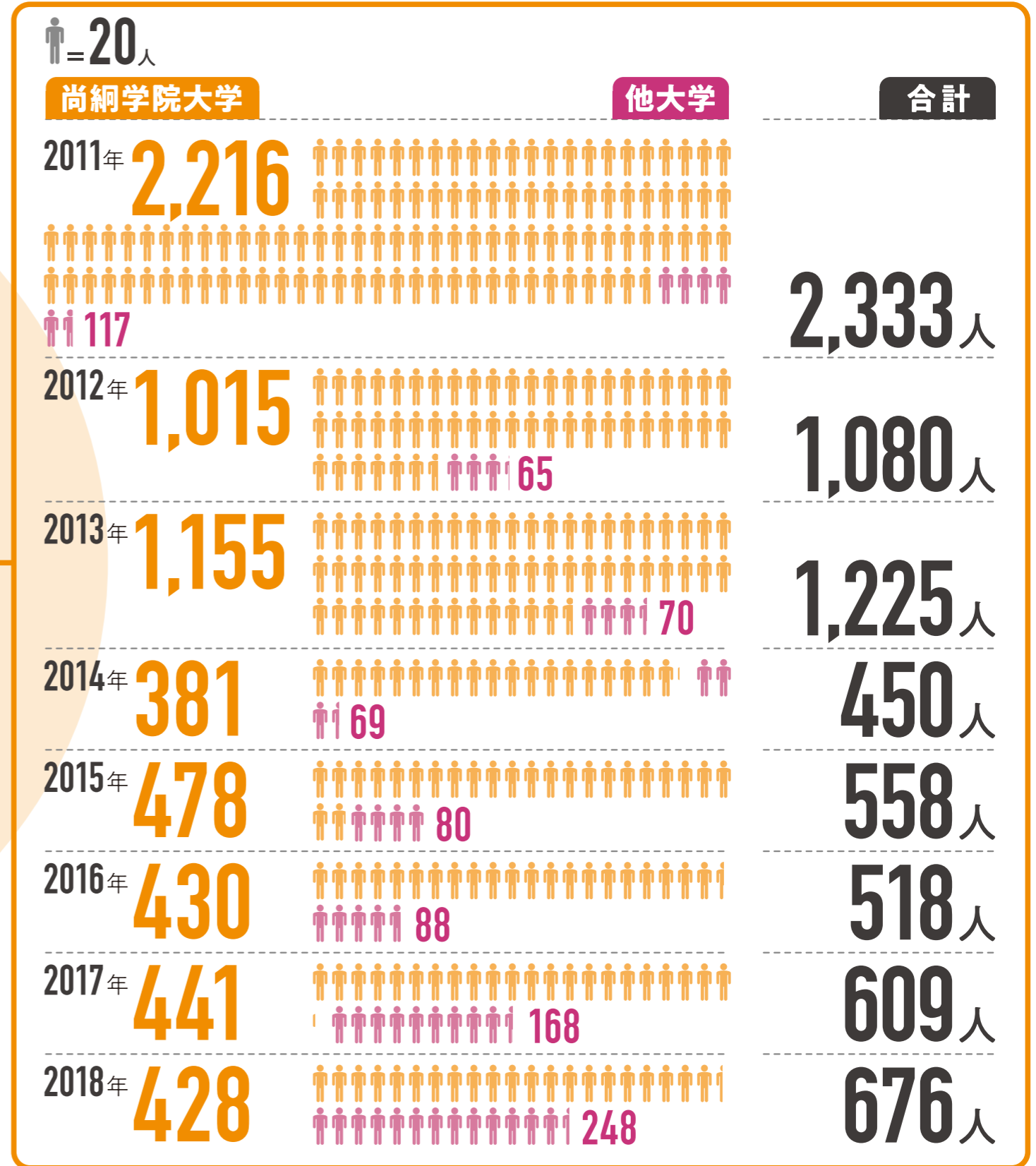
- 合同プログラムの実施、参加
- 招へいプログラムへの参加・派遣など

- 東北大学
 - 東北学院大学
 - 仙台大学
 - 尚絅学院高等学校
 - 桜の聖母学院高等学校
 - 大学間連携災害ボランティアネットワーク 参加校(全140校)
 - 学都仙台コンソーシアム(加盟全21校)
 - 復興大学
 - 災害ボランティアステーション など
- 大阪体育大学 ● 神戸学院大学
 - 同志社大学 ● 流通科学大学
 - 神戸大学
 - 大学コンソーシアムひょうご神戸(全40校) など
- 西南学院大学 ● 熊本学園大学
 - 尚絅大学・尚絅大学短期大学部 など
- 敬愛大学 ● 法政大学
 - 聖学院大学 ● 敬愛高校 など
 - 多摩大学



尚絅学院大学

2011~2018年の間に、約7,500人の学生・教職員が活動に参加!!



大学間連携プログラムの紹介

これまでに県内外の様々な大学と、大学間連携プログラムを実施しています。
 その中でも震災直後の2011年から継続して毎年夏に実施している合同プログラムを
 2つご紹介します。

大学コンソーシアムひょうご神戸(兵庫県)

大学コンソーシアムひょうご神戸のボランティア事業として東日本大震災が発生した2011年から毎年夏に神戸の学生が宮城県名取市を訪れ、TASKIと一緒に仮設住宅でのイベント開催や清掃活動等のボランティアを行ってきました。

2019年の夏は新しい閑上中央集会所で住民さんたちとの交流会や学生間のワークショップを実施しました。

また、近年は事前研修や報告会、阪神・淡路大震災を学ぶための学習会、1.17のつどい等で神戸を訪問するなど一年を通じて交流を深め、充実した活動と学びに繋がっています。



2011年

大学コンソーシアムひょうご神戸

兵庫県下の32大学、7短期大学・短期大学部、1高等専門学校の計40校、学生総数約10万人を母体に活動。
 2019年度は12大学47名が、学生災害ボランティア・ネットワーク事業に参加。

2014年



2018年



2019年



敬愛大学(千葉県)

千葉県の敬愛大学の皆さんは、東日本大震災が発生した2011年から毎年宮城県名取市を訪れ、TASKIと一緒に仮設住宅でのお茶会や清掃活動等のボランティアを行ってきました。

敬愛大学の皆さんが作った愛島東部仮設団地集会所前の花壇にはいつもきれいな花が咲き、その隣のベンチで住民さんたちが毎日楽しくお話しするのが日課になっていたようです。

その後も毎年、復興公営住宅等での住民交流の活動を続け、2018年には福岡県の西南学院大学の皆さんと一緒に3大学合同学習会を実施。各大学の活動報告や熊本地震・北九州豪雨災害ボランティアについての話を聞き、意見交換を行ってお互いの学びを共有しました。

2011年



2011年



2014年



2017年



2017年



2018年



2019年



2018年・2019年は西南学院大学と3大学合同で実施

つづける

私たちにできることはなんだろう

つなげる・つながる

声
全国の大学生・高校生の
 一緒に活動や学習会を行なった
 皆さんの声をお届けします！

- 継続した学び
- 行政が手をまわしにくいところの支援
- 「ボランティア」をもっと身近なものにしたい
- 住民さんにとって「忘れられていない」を届ける存在になる、行き続ける
- 当事者意識を持つ
- それぞれの立場の人の気持ちを知る
- 防災意識を持つ
- もっと色々な立場の方から話を聞きたい
- 思い続ける
- とにかく現地に行く

- 思い続ける
- 継続した学び
- 「ボランティア」という言葉に頼らない交流をしていきたい
- 交流の機会をつくる
- 若者会をつくる！
- 自分たちが「先駆者」になる！
- 住民さんのつながれる環境をつくる
- 世代間のかけはし



これからの世代に震災の経験を伝えるには？

- 伝える、寄り添う、忘れない
- 風化させない
- 小学生など知らない世代の子どもたちに伝える
- 震災の学びなおしをする
- ボランティアに参加する
- 伝承し続ける
- 「減災」のために伝える
- 情報の入手方法が少ない高齢者に正確な情報を伝える
- 友達や家族、SNSで発信
- 自分事として被災地のことを捉えて、その教訓を伝える
- 今日のことをしっかりと記憶して、いつか自分の子どもに伝えたい
- 災害を忘れない。後世に伝えていく
- 地域交流の時間を多くする
- Learn from history, Build for the Future. —歴史から学ぶことがある—
- 東北の良さを、学生だからこそできるやり方で、たくさんの人に伝えていきたい
- 第三者として被災された方から「本音」を聞く

つたえる

被災地のリレー～神戸から学ぶ～

2018年度より、東日本大震災の被災地だけでなく他の地域の震災についても学びを深めるために「神戸訪問プログラム」を実施しています。1995年の阪神・淡路大震災から25年が経過した兵庫県神戸市を訪問し、フィールドワークや語り部の話を通じて震災やその当時の状況について知るとともに、その後の復興の歩みについて学び、地元名取市での活動や今後の災害・防災について深く考えるプログラムです。

人と未来防災センター

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災について、映像や資料、語り部の話などから学び、防災・減災について学ぶことができる施設です。東日本大震災の映像・展示や、南海トラフ巨大地震に向けた研究についても紹介されています。



- 1
- 2
- 3
- 4

- 1: 語り部さんのお話
- 2: これからの巨大地震の可能性は…?
- 3: 津波避難の難しさを体験
- 4: 災害への備えを体験



神戸市内フィールドワーク

神戸港震災メモリアルパーク

神戸のランドマークである「神戸ポートタワー」などがある公園内に、阪神・淡路大震災によって被災したメリケン波止場の一部が遺されています。



HAT神戸(災害復興公営住宅)



HAT神戸とは神戸市東部の再開発地域で、「Happy Active Town」の略称。HAT神戸灘の浜の災害復興公営住宅団地を訪れ、「なぎさふれあいまちづくり協議会」の皆さんから、復興公営住宅のまち・コミュニティづくりについてお聞きしました。



岩屋地区(災害復興公営住宅)

2019年は、HAT神戸の近くにある岩屋地区の公営住宅にお伺いしました。



神戸市内フィールドワーク

東遊園地

東遊園地は、神戸市役所の隣にある公園で、阪神・淡路大震災が発生した1月17日に「1.17のつどい」という追悼行事が行われる場所でもあります。

公園内には、数々の震災遺構に加えて、震災で亡くなった方の名前が刻まれた「慰霊と復興のモニュメント」や、「1.17希望の灯り」というモニュメントがあります。この希望の灯りの火は、有志団体やボランティアにより、名取市内の仮設住宅等にも運ばれ、慰霊行事において竹灯籠に灯されるなど、神戸と名取を結んでいます。



希望の灯りの火



2016年／愛島東部仮設住宅夏祭りにて兵庫県のボランティアの皆さんと



モニュメントに刻まれた言葉

阪神高速道路橋脚

震災の影響で折れてしまった橋脚や道路部品の一部



長田地区

震災後の大火災によって、商店街や住宅が甚大な被害を受けた長田地区。商店街の方や地域の皆さんにお話を聞きながら、実際にまちを歩きました。



被災後に商店街の復興に尽力した方など、地域の皆さんの話を聞きました。新たに整備された展示スペースも訪問しました。



復興に向けて制作された巨大モニュメント「鉄人28号」



今後の災害に備えた避難経路を示す看板



廃校になった小学校（現在はコミュニティ施設）において長田地区の被災状況について学びました。



まとめてみよう!

1

学び

印象に残ったこと、感じたこと、教訓を得たこと、誰かに伝えたいこと…

2

学びをきっかけに…

もっと知りたい・学びたいこと/自分の専門で・地域で活かしたいこと…

2020年、東日本大震災から9年が経過。

現在のTASKIのメンバーは、2011年当時、小・中学生でした。

学生はどのような想いで活動を始め、復興についてどのような想いを抱いているのでしょうか。

1年生に聞きました!

- ① TASKIで活動を始めたきっかけは?
- ② 今後の活動への意気込みをどうぞ!

人文社会学群 1年 / 菅原 良真

- ① 僕は、友人のすすめで、TASKIに入りました。元々、高校生の頃にも、生徒会のボランティア活動に頻りに参加していたこともあってボランティア自体に興味があったので、良い機会だと思い始めました。
- ② 今現在、活動している人が少ないため、いろいろな方にTASKIの活動に参加してもらいたいです。やっぱり、ボランティアをすることは敷居が高いように感じる人が多いようなので、そういった印象を払拭できればいいなと考えています。ただ、遊び場だと思われてもダメなので、難しいところだと思います。新しいメンバーを増やすために、自分たちTASKIがどういったチームなのか知ってもらう必要があると思うので、様々な形で説明するような、活動をしていきたいです。



健康栄養学群 1年 / 黒木 麻瑚

- ① 高校の時、尚絅学院大学に進学を決めた際にボランティアチームのTASKIが被災地で活動をしていることを知り、実際に被災地を見たことがなかったため自分の目で確かめてみたいと思ったからです。
- ② これまでも回数は少ないですがバスツアーや関上でのボランティアに参加して、住民さんたちと交流しお話をする機会が増えてきました。そこで感じたことをその時だけのものにするのではなく、周りの人と共有して伝えていきたいです。また、これから行う学生企画のボランティアでも様々な方の力を借りながら企画を考え、自分が出来ることを見つけていきたいです。



人文社会学群 1年 / 山本 想良

- ① 私は長野県から大学進学をきっかけに宮城県へ来ました。震災から8年経った今復興は終わっている、と思っていましたがまだ、復興の途中だと知りとても驚きました。なので、震災のこと、それから復興を遂げていく町と復興に奮闘している方々にたくさんお話を聞きたい、交流したいと思い、TASKIに入りました。
- ② TASKIの先輩方が今までしてきた活動、そしてこれから僕たちがしていく活動をもっとたくさんの人に多様なツールを使って伝えていく、という事をしていきたいです!

4年生に聞きました!

- ① TASKIで活動を始めたきっかけは?
- ② これまでの活動を通して考える、あなたにとっての「復興」とは…?
- ③ TASKIの活動で得たこと、その経験を自分の将来にどう活かしていきたいですか?

環境構想学科 4年 / 小山 夏実

- ① 私の地元も東日本大震災の津波によって甚大な被害を受けました。幸いにも自宅も家族も無事で、中学・高校と平穏に過ごしました。しかし、大学入学後のサークル紹介でTASKIの紹介を聞き、自分は被災地にいるのにも関わらず、当時の避難所の状況や仮設住宅での暮らし、地元以外の被災地はどのような被害を受けたのか等何も知らないことに気が付きました。これがきっかけでTASKIに入り、今に至ります。
- ② 震災を経験した方々が「復興した」と思えたら、です。この活動を通して多くの方に出会いました。前を向いている人、心に傷を負っている人、後世に震災を伝えようとする人など様々です。その方々が心から「復興したー!」と思えることが復興なのかなと思います。それはとても難しいことで、私達が生きているうちには終わらないものだと思います。
- ③ 関上の住民さんとの関わりや他大学の学生さんとの交流の中で、自分の目で確かめ、考えることの大切さを学びました。この経験を、後世だけではなく色々な人に伝えていくことしかできないのかなと思います。いざ震災が起きたときに「あの学生がこんな話をしていたな」と思い出してもらえるような、その人の命を守るきっかけとなってくれるような伝え方をしたいです。

健康栄養学群 1年 / 加賀 佑香

- ① 東日本大震災がきっかけになっています。当時は小学生だったのでなにもできませんでしたが、震災で被災された方に何かしたいと思いました。コミュニティを作るきっかけをつくり住民さんの手助けをしたいです。
- ② 今後も、関上の住民さんと交流をしていきたいです。神戸訪問の時に、意見交換をした神戸の学生さんが東北に来たいと言ってくれたので、自分が出会った人が少しでも関上に来てみたいと思ってくれるように活動していきたいです。また、これまでに参加した活動を他の人にも伝えたり、今後、自分達が災害にあった時に対処できるように活動しながら学んでいきたいです。



3年生に聞きました!

- ①TASKIで活動を始めたきっかけは?
- ②これまでの活動を通して考える、あなたにとっての「復興」とは…?
- ③TASKIの活動で得たこと、その経験を自分の将来にどう活かしていきたいですか?



健康栄養学科 3年 / 下山 陽子

- ① 3年生の春にTASKIが毎年主催している関上バスツアーに参加したことがきっかけです。復興への取り組みや住民の方々の話を聞いて、自分にできる事は何かもっと知り、考えたいと思いました。
- ② 『re-connection』周囲の人たちとの繋がり、住んでいる地域や家など場所との繋がり、そして自分の気持ちや他者の気持ちを見失わないための心の繋がり。生きていけばたくさんの繋がりがあると思います。私は災害やTASKIの活動を通して、その繋がりの存在や大切さに気づかされました。災害はその繋がりを希薄化・分断してしまいます。被災した方々がその繋がりを取り戻すことができるように、また新しい繋がりを築くことができるように、取り組んでいきたいです。
- ③ 私がTASKIに入って最も良かったと思ったことは、いろいろな人たちと出会えたことです。同じようにボランティア活動をしている学生たちや、お茶会などのイベントで出会った住民さんたち、災害や被災地について教えてくださった方々、そしてTASKIのメンバー。皆さんと実際に会って話してみても、「繋がり」の存在や大切さ、おもしろさを知ることができました。その経験から、**将来はさまざまな人や物事を繋ぎ合わせて新しい発見や暮らしをより良いものにしていけるような仕事をしたいと考えています。**

現代社会学科 2年 / 山本 楽人

- ① 私は入学後に漠然と「ボランティア活動をしたい」と思っていました。東日本大震災後に被災地を訪れる機会があり、その変わりように驚きました。そして、自分にも何かの役割があると思い始めたことがきっかけです。
- ② 私にとっての「復興」とは、**震災前の幸せな思い出が蘇ったときだと思います。**被災された住民さんは、震災後、慌ただしい毎日を過ごされてきたと思います。この当時、その住民さんは震災前の幸せな記憶を回想するより、目先のことが優先すべきことだったと思います。したがって、私は住民さんが小学校の思い出や楽しかった出来事などを振り返れる時間を作ることができたら、復興したといえると思います。
- ③ TASKIの活動で得たことは、行動力です。私は、TASKIの活動を通して、神戸学院大学が主催する招へいプログラムに参加し、それを境に、失敗を恐れず何事にも挑戦する姿勢を学びました。この経験を将来、人の役に立つ活動に活かしたいです。なぜなら、誰かの役に立つためには、行動することが一番大切だと思っているからです。例えば、私は東日本大震災当時、被災地でボランティア活動をするという考えが浮かびませんでした。自分には何もできないと思っていたからです。これは、行動力の差だと感じています。私はこれからも**行動力を強みにし、自分の興味がある分野で人の役に立てる活動に取り組んでいきたいです。**

2年生に聞きました!

- ①TASKIで活動を始めたきっかけは?
- ②これまでの活動を通して考える、あなたにとっての「復興」とは…?
- ③TASKIの活動で得たこと、その経験を自分の将来にどう活かしていきたいですか?



健康栄養学科 3年 / 逸見 彩絵

- ① 東日本大震災で被災した場所は、今どうなっているのかを知りたいと思い、**入学してすぐに関上バスツアーに参加しました。**そこで経験した住民さんとの交流が楽しかったので、自分もこれから活動を続けていきたいと思いました。
- ② 人それぞれ違うもので、「ここまで復興したなぁ」と思う人もいれば、「いつになったら復興というのか分からない」という人もいます。**人それぞれ考え方は違うし、誰かが決めていいものではないと思っています。**自分が納得すれば、それが復興なのかな…?
- ③ TASKIの活動でたくさんの新たな人との繋がりができました。TASKIの学生や活動を支えてくれる職員さんはもちろん、関上の住民さんや、宮城まで来て一緒に活動や学習会をしてくれる他大学の学生など。**この活動をやってきたからこそ出来た繋がりを、あと1年、そして卒業後も大切にしていきたいと思っています。**この繋がりの中で、TASKIは震災後からどんなことを続けて来たのか、被災した場所や人はどんな歩みを辿っているのかなどを発信し、もっと多くの方にボランティアの楽しさを感じてもらったり、ボランティアを始めるきっかけづくりをしていきたいです。

子ども学科 2年 / 堀子 明日香

- ① 特に震災関連の活動にこだわっていたわけではなく、何か自分にできることはないかと思いTASKIに入ったのがきっかけです。東日本大震災の学習会で**震災のことをあまり知らないと感じ、震災を知るという面でも徐々に活動に参加するようになりました。**
- ② 被災された方にとっては、身の回りのあらゆることに折り合いをつけながらにはなるかもしれませんが、**震災に関する不安を一切抱えずに日常生活を送れるようになること**だと思います。被災された方が口にした「復興は永遠にない」という言葉から、震災による心の傷や不安が全てなくなる限り、復興は実現しないのだと考えるようになりました。
- ③ 人との繋がりの大切さを知りました。被災された方、命がけの経験をした方との繋がりや、学生同士の関わりでも多様な考え方に触れ刺激を受けています。活動を通して出会った人との繋がりは、単純に「震災のことを知る」といったことで片付けられるものではなく、自分の物の見方を大きく広げてくれた偉大な存在ばかりです。その方々との繋がりを通じて得た知識や教訓をもとに、将来は消防士として勤務し、**災害が起こった際には一人でも多くの命を救えるような人々に貢献できる人間になりたいです。**



TASKIがこれから目指すこと

名取市では2019年5月に『閑上地区まちびらきイベント』が行なわれ、2020年3月にハードの復興完成を表す『復興達成宣言』が予定されています。そして、2021年3月11日には東日本大震災発生から10年を迎えます。

私たちは被災地を訪れる度に「復興ってなんだろう…」
「大学生として、なにができるのか…」と考えてきました。
また阪神・淡路大震災から25年を迎えた神戸からも学び続けています。

今私たちが行なっている活動は
果たして「住民の皆さんのためになっているだろうか」
むしろ「住民の皆さん自身が前に進むことを妨げていないだろうか」と
模索しながら、様々な変化に合わせながら、
現在も寄り添いの活動を続けています。

最後に、これからのTASKIが目指すことをご紹介します。



つづける

住民さんによる
新しいまちづくりがスタート

コミュニティづくりのお手伝い

住民さんのニーズを見極め、
活動を続ける

震災を忘れない

震災を知り、学ぶ

次世代へ
「記録し、伝え続ける」

つなげる

- 新しい環境の中で住民の皆さんにとって「安心できる居場所」や、「支えあえる仲間」ができる“きっかけ”となるようなお手伝いと寄り添いの活動。
- 住民さん主催の活動をサポートする。

つたえる

- 私たちの活動や被災地のことを全国の大学生や高校生、震災当時はまだ小さかった子どもたち、他の地域の若者たちへ伝える。
- 東日本大震災でたくさんの尊い命が失われたこと、震災での教訓、被災した地域の震災当時から現在に至るまでの過程などを伝える。

おわりに

活動を始めて3年、私の大学生活の一部に、「被災地のボランティア」が入っています。入学すぐの緊張していた頃と比べて、今やもう閑上は第二の地元のように思っており、ボランティアも“地元”に帰る“ような感覚です。住民さんと、まじめに話をしたり、楽しく笑いながら交流しています。

この冊子はそんな私の思いの一部と、震災後から8年にわたって活動を続けてこられた先輩方の思いが詰まったものになりました。TASKIの活動と、被災地と呼ばれるようになった閑上のこれまでを全国の人に発信することを目的として冊子を作ってきましたが、この冊子が、手に取った誰かの行動や新たな気持ちのきっかけになれば、と願っています。
(健康栄養学科3年 逸見 彩絵)

最後まで読んでいただき誠にありがとうございます。この本を読んでくださった方に、ぜひお願いがあります。それは、この本で印象に残ったことを誰かにお話してほしいということです。津波のこと、復興とは、閑上のことなど何でも大丈夫です。皆さんが誰かに伝えることで、この本は「震災を後世に伝えていく」という役割を果たすことができます。どのようにして震災を後世に伝えていくか、これは私たちの課題の1つです。少しでも多くの人に東日本大震災のことが伝わり、これから起こり得る災害から多くの命が助かることを願っています。また、災害発生時のボランティア活動について私達の活動記録が参考になれば幸いです。ありがとうございました。(環境構想学科4年 小山 夏実)

2011年3月11日の東日本大震災からまもなく9年が経とうとしています。学生たちが東日本大震災後の現場や辛さを抱えた人々に直面した時、皆少なからず戸惑い悩みながらも、他人ごとではなく自分ごととして、寄り添う気持ちを大切に活動を続けてきました。

9年という長い期間、心の“たすき”をつなげることができたのは、多くの援助はもちろんのこと、一緒に活動してきたチームの仲間や市民の皆さん、次に進む道を作ってくれた先輩たち、思いをひとつにする全国の学生とのつながりがあったからだと思います。

そして、学生たちは今、第二の故郷に帰るような気持ちで閑上を訪れるようになりました。それは、閑上の皆さんがいつも学生たちを温かく受け入れ、我が子や我が孫のように育ててくださったからです。

この冊子は、活動の記録を残すだけものではありません。活動を通して見えたその時々被災地の状況や、人々のにじみ出る気持ちを伝えることで、次世代や他地域の防災・減災・復興に繋がる小さなヒントになり、「復興ってなんだべ(復興ってなんだろう)」と一緒に考える機会になればと思います。

最後になりますが、お力をいただいている全ての皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

(尚綱学院大学連携交流課長 佐々木 真理)

参考文献

- 「名取市における東日本大震災の概要」
名取市総務部 震災記録室 編集 平成27年3月 名取市発行
- 名取市「昭和三陸津波の碑」
https://www.city.natori.miyagi.jp/soshiki/kyouiku/node_28152/node_1793/node_1794/node_31881
- 名取市「東日本大震災慰霊碑建立のお知らせ」
https://www.city.natori.miyagi.jp/soshiki/soumu/seisaku/node_27436/node_30103
- なとり100選「閑上の「閑」の文字」
<https://www.city.natori.miyagi.jp/natori100/019.htm>
- 東北地方整備局 震災伝承館(東北地方整備局)
<http://infra-archive311.jp/w04.html>

協力

- 名取市
- 東北地方整備局
- 一般社団法人東北地域づくり協会
- 東日本大震災アーカイブ宮城～未来へ伝える記憶と記録～
<https://kioku.library.pref.miyagi.jp/>
- 名取市図書館 名取市震災アーカイブ
<https://lib.city.natori.miyagi.jp/311arc/homes>